

科目名	コミュニケーション論（共生社会形成論Ⅴ）	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「共生社会形成論Ⅴ」	
科目概要	授業内容	本講義は、日常生活における対面的なコミュニケーションに焦点をあてた社会学の視点を中心にして、コミュニケーションを成り立たせている仕組みについて考察を進める。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを成立させる構造について目を向けるための、応用的な視点が獲得できる。 ・社会で経験する（これまでしてきた）コミュニケーションについて、反省的に考察することができる。
授業計画	(1) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (1) (2) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (2) (3) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (3) (4) コミュニケーションの「成り立ちえなさ」について (4) (5) 「動機」のコミュニケーション上の構成 (6) 対面的コミュニケーションにおける状況：物理構成面 (1) (7) 対面的コミュニケーションにおける状況：物理的構成面 (2) (8) 対面的コミュニケーションにおける状況：認識的構成面 (1) (9) 対面的コミュニケーションにおける状況：認識的構成面 (2) (10) ダブルバインドというコミュニケーション (1) (11) ダブルバインドというコミュニケーション (2) (12) 三者関係のコミュニケーション：夏目漱石『こころ』から (1) (13) 三者関係のコミュニケーション：夏目漱石『こころ』から (2) (14) 現代サービス産業における「感情」を媒介としたコミュニケーション (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布される資料を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付された資料の語句の意味が分からない時はそのままにせず、主体的に調べて理解しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】教科書は特に指定しない。講義中で配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】E. ゴフマン『行為と演技』 誠信書房 1974年 ISBN 4414518016ほか	
成績評価方法と基準	自分の経験を基にして、授業で扱った視点の内面化が一定程度できていると認められれば合格とする。評価はレポートでおこなう。授業中で不定期に課題提出を求める。レポート60%、課題40%の割合で評価を行う。レポートに関しては、配付資料や参考書の文章を「写した」ような内容は認めない。	
備考		